

The background of the cover features a blurred image of green leaves in the upper left and blue water in the lower right. The text is centered and layered.

SENKO

環境・安全報告書

Environment and Safety Report

2007

Contents

ごあいさつ	1
会社概要	2
Highlight	
特集 1 モーダルシフトへの取り組み	4
特集 2 大型化への取り組み	5
特集 3 安全への取り組み	6
Management	
私たちが目指す姿	7
社是/中期経営計画	
CSRへの取り組み	8
センコーのCSRの基本的な考え方/センコーの事業とステークホルダー/現在の具体的取り組み/ 内部統制への取り組み/コンプライアンス経営/個人情報保護	
CS(顧客満足)向上のための取り組み	9
CS(顧客満足)活動/TOPICS 旭化成ホームズ(株)様とのパートナーシップ	
Environmental Activity	
環境基本方針	10
環境基本方針/最近の環境問題と物流業界の課題～「省エネ法」改正～	
第Ⅲ期環境マスタープラン	11
環境基本計画	12
推進体制	13
環境推進体制/環境マネジメントシステム/ISO14001 認証取得部門の環境への取り組みについて/ 環境監査/グリーン経営認証取得への取り組み/従業員への啓発活動	
センコーと環境の関わり	15
センコーの環境負荷の全体像	
地球温暖化防止への取り組み	16
CO ₂ の排出状況/CO ₂ 排出量削減への取り組み	
物流効率化への取り組み	17
モーダルシフトへの取り組み/TOPICS グリーン物流パートナーシップ普及事業への取り組み(1)/ TOPICS グリーン物流パートナーシップ普及事業への取り組み(2)	
汚染防止への取り組み	18
車両の低公害化	
廃棄物削減への取り組み	19
廃棄物・リサイクルガバナンス体制の構築、推進/3Rへの取り組み	
Social Activity	
安全衛生への取り組み	21
労働安全衛生/「センコー安全マネジメントシステム」の構築/安全管理研修・訓練の実施/ 日常の安全活動の取り組み/安全確保の取り組みに対する社内外の評価/ 「技術・技能」向上に関する社内表彰/無事故・無災害皆勤者および事業所の表彰/労働衛生管理	
人材育成への取り組み	26
人材育成への取り組み/独自の行動規範・技術基準「センコー流」の完成/ 「強い現場」を実現する人材育成体制の確立/クレフィール湖東での運転訓練、研修の実施	
コミュニケーション	28
情報開示の状況/社会貢献活動/「子ども交通安全フェスタ」の開催	
センコーの沿革と環境保全・安全活動の歩み	29

「環境・安全報告書 2007」について

- 対象範囲 環境保全・安全に関わる取り組みについてはセンコー株式会社を対象としています。一部グループ会社の活動も含まれます。
- 対象期間 2006年4月～2007年3月の事業活動を対象としています。一部2007年度の活動も含まれます。
- 参考としたガイドライン 環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」
- 次回発行予定 2008年10月



京都議定書の第一約束期間(2008～2012年)を目前に控え、また日本政府が世界全体の温室効果ガス排出量を2050年までに現状から半減することを提唱するなど、今日、環境対策への取り組みはますます重要になっています。物流企業として公共の道路や地域の皆様の生活の場を事業活動で利用させていただいている当社は、社会との共生を図りながら持続的な発展を目指すために、環境保全、交通安全対策を経営の最重要事項と位置づけています。

環境保全の取り組みとしましては、デジタルタコグラフの全車装着を推進し、ドライバーや管理者の運転・指導意識を高め、エコドライブの徹底を図っています。さらに低公害車両・荷役機器、ならびに省エネ設備の導入や、よりエネルギー効率の高いグリーン物流システムの提案などを積極的に行っています。

一方、交通安全対策の取り組みとしましては、「クレフィール湖東」を核に、安全運転の技能や知識の修得を目指してグループ従業員を実践的に訓練・教育しています。また労働衛生管理面では、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の検査を徹底するなど、継続的に安全水準の向上に努めています。

このたび、当社の取り組みをご報告する「環境・安全報告書2007」を作成いたしました。皆様より当社の取り組みに対するご意見、ご評価を頂戴し、今後の活動に生かしていきたいと存じます。なにとぞ忌憚のない声をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

福田 泰久

会社概要

会社概要データ

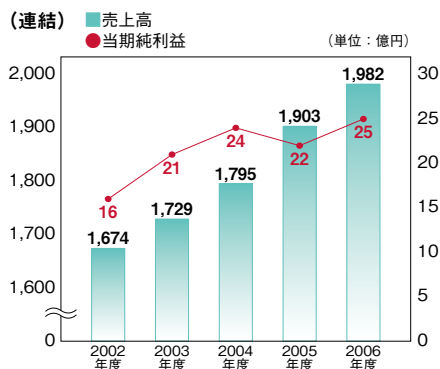
社名 センコー株式会社
本社 〒531-6115
 大阪市北区大淀中 1-1-30
代表者 代表取締役社長 福田泰久
設立 1946年7月
資本金 182億9,564万円
 (2007年3月31日現在)
連結売上高 1,982億円(2006年度)
単体売上高 1,748億円(2006年度)
従業員数 連結6,611名
 単体3,739名(2007年3月31日現在)

主要サービス

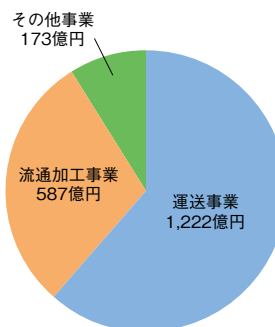
- 貨物自動車運送事業
- 倉庫事業
- 鉄道利用運送事業
- 小運搬構内作業
- 海上運送事業
- 国際物流事業

主要データ

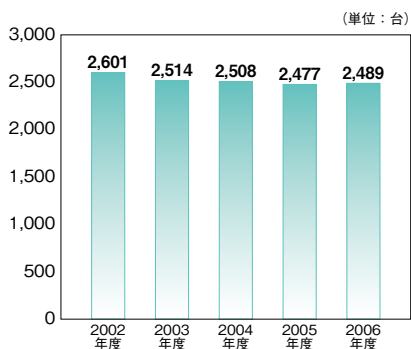
■連結売上高／連結当期純利益の推移



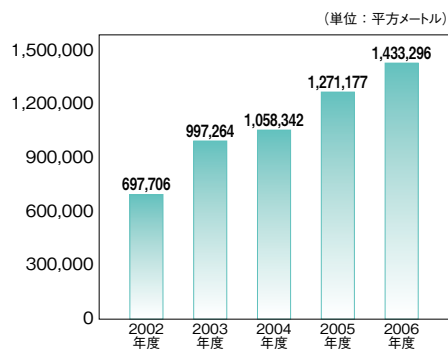
■連結セグメント別売上高 (2006年度)



■車両台数 (連結)



■倉庫総面積 (連結)



国内拠点



埼玉主管支店 浦和PDセンター



南大阪支店 泉北第2PDセンター



海外拠点

大連	大連保税地区貝思特国際貿易物流有限公司(遼寧省大連市) 大連三興物流有限公司(遼寧省大連市)	シンガポール	Senko International Logistics Pte.Ltd.
上海	上海駐在員事務所(上海黄浦路) 扇興物流(上海)有限公司(上海外高橋保税區) 上海扇興国際貨運有限公司(上海黄浦路)	バンコク	SENKO (Thailand) Co.,Ltd.(タイ)
香港	Senko International Logistics(Hong Kong) Ltd.(香港) 香港駐在員事務所(香港)	ニューヨーク	ニューヨーク駐在員事務所 (ニューヨーク州ニューヨーク市)
広州	広州扇興物流有限公司(広東省広州市) 上海扇興国際貨運有限公司・広州分公司(広東省広州市)	デトロイト	デトロイト駐在員事務所(ミシガン州デトロイト市)
蘇州	蘇州駐在員事務所(江蘇省蘇州市)	アトランタ	SENKO (U.S.A.) INC.(ジョージア州アトランタ市) アトランタ駐在員事務所(ジョージア州アトランタ市)
張家港	広州扇興物流有限公司・張家港分公司(江蘇省張家港市)	フランクフルト	ヨーロッパ駐在員事務所(ドイツフランクフルト市)
南通	上海扇興国際貨運有限公司・南通事務所(江蘇省南通市)		
杭州	広州扇興物流有限公司・杭州分公司(浙江省杭州市)		

主な海外代理店(本店所在地)

韓国/台湾/香港/シンガポール/マレーシア/ベトナム/インドネシア/タイ/スリランカ/フィリピン/デリー/チェンナイ/ムンバイ/コルカタ/ツチコリン/イラン/アフガニスタン/
パキスタン/トルクメニスタン/バングラデシュ/オーストラリア/ニュージーランド/ドイツ/ルーマニア/イギリス/アイルランド/フィンランド/スイス/カナダ/メキシコ/ブラジル

モーダルシフトへの取り組み

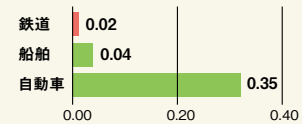


鉄道・船舶を利用したエネルギー効率の高い輸送形態へシフト

センコーは、トラック主流の幹線貨物輸送を鉄道や船舶を利用した輸送形態に切り替えるモーダルシフトを推進しています。鉄道や船舶は、貨物自動車に比べてエネルギー効率が高く、CO₂ 排出量を削減するとともに、大気汚染防止にも効果を発揮します。自社船舶も所有する当社は、陸・海上を柔軟に活用し、より効率的な輸送を実現しています。

◎貨物鉄道輸送のCO₂排出量は、トラックの**17分の1**

貨物輸送機関CO₂排出原単位 (kg-CO₂/トンキロ)



出典：環境省中央環境審議会地球環境部会「目標達成シナリオ小委員会」第3回会合資料

(株)メガスports様の長距離輸送8区間でモーダルシフトを実現

全国約70店舗でスポーツ用品を販売する(株)メガスports様と連携し、2004年から同社の商品輸送において、鉄道を利用したモーダルシフトを進めています。12フィートのコンテナを導入し、現在、千葉県・舞浜、愛知県・一宮の2拠点から、北海道、東北、四国、中国、九州地方の計8ヶ所へのルートで、列車とトラックによる複合輸送を行っています。

これにより、1年あたり約2800tのCO₂排出量を削減、全区間トラック配送した場合と比較して、約88.8%の削減率が見込めます。今後はさらに沖縄など3ヶ所へのルートにおいて、鉄道や船舶による輸送に切り替えていく予定です。

列車へのモーダルシフト例

●西日本：一宮～北九州

(従来)



(現在)



鉄道輸送へのモーダルシフト全区間(一宮～広島・高知・北九州、舞浜～札幌・旭川・苫小牧・八戸・盛岡)の年間CO₂削減効果試算

全区間トラック配送の場合 約 3154.8t/年	削減率約 88.8%	列車を活用した場合 約 353.8t/年
-----------------------------	------------	-------------------------



担当者から

東京主管支店舞浜PDセンター 副センター長 中本 勝俊

(株)メガスports様は2004年、スポーツ量販業界に先駆けてJRコンテナでの輸送を導入されました。現在も新店展開の輸送には必ずコンテナを検討され、着々と路線数を増やしています。コンテナ輸送は天候に左右されやすく、運休によって配送が遅れる場合もあります。それでもお客様の理解を得ながら、舞浜PDセンターでもサービスのレベル向上に努め、路線数増加を推進しています。今後もいっそうJRコンテナへのモーダルシフトが進んでいくと確信しています。

大型化への取り組み



コンテナを輸送する通常型ハイリフトカブラー車



センコー独自の工夫を凝らした
12フィートバルク専用コンテナ



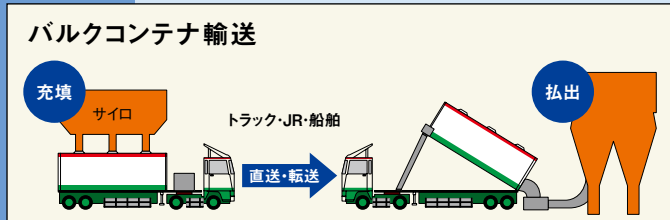
ロータリーバルブ、ルーツブローア、
発電機搭載型特殊シャーシ

バルク専用コンテナを使用した樹脂の一貫輸送を推進

センコーは、バルク専用コンテナを使用した樹脂の一貫輸送を推進しています。500kg～1tの樹脂を充填できる従来のフレキシブルコンテナ(通称:フレコン)を使用した場合、1回あたりの輸送量は10t～12tほどでした。一方、樹脂バルクコンテナは、一つのコンテナに16t～20tを充填でき、1回あたりの納入量を大幅に拡大することができます。これにより配送回数、配送車数を削減し、

その結果、エネルギー消費効率の改善やCO₂排出量の削減が可能となりました。バルク専用コンテナを利用することにより、1ヶ月あたりのCO₂排出量は、1.74t、削減率約59%が可能と試算されています。(表1)また樹脂バルクコンテナの活用は、紙袋、フレコン、パレットなどの資材の削減や管理工数の削減にも役立っています。

(注)バルク:粉体、粒体などの包装しないで積み込まれる貨物。ばらもの。



(表1)大型化によるCO₂排出量比較試算(改良トシキロ法による)

	大型化前 10tトラック	大型化後 ダンプアップシャーシ
総走行距離(km)	5,000	3,100
平均積載輸送重量(t)	5	8
CO ₂ 排出量(t/月)	4.23	1.74

(試算前提)

①輸送トン数:500t/月②輸送距離:50km③10tロット配送回数:50回
④10t車燃費:3km/L⑤16tロット配送回数:31回⑥16tダンプアップ車燃費:2km/L

バルク専用コンテナ(ISO規格)、特殊シャーシの開発

メーカー様のバルクコンテナ化を支援するため、センコーはバルク輸送に適した20フィートの専用コンテナを独自に開発、提案しています。コンテナには、上部・後部に充填口、後部に排出口を配置するなど工夫を施し、作業効率と安全性の向上、異物混入防止を実現しています。

またシャーシにロータリーバルブ、ルーツブローア、発電機など関連装置を搭載した特殊シャーシ(特許出願中)も開発しました。バルクコンテナへの充填、払出しを1台で対応することで、化学メーカー様およびユーザー様のバルク化に要する新規設備投資を大幅に軽減しています。

担当者から

千葉支店車両センター 須藤 良介

住友化学(株)様では、合成樹脂のバルク輸送について、従来10tホッパーコンテナ(専用タイプ)を利用されてきましたが、内袋方式による20フィートコンテナ(汎用タイプ:17t積載可)への転換に際し、当社提案のバルクターミナル並びに特殊シャーシを活用いただき、環境負荷の低減を図っておられます。

輸送単位の大型化により輸送頻度を減らし、CO₂排出量の削減を実現する本取り組みは、国土交通省の「2006年度グリーン物流パートナーシップ普及事業」にも認定されました。



安全への取り組み



ドライバーの実技競技



オペレーターの実技競技

第2回センコーグループ技能コンテスト全国大会の開催

センコーマン(ウーマン)として求められる態度、技能、知識をグループ全体に浸透させ、運輸業のプロとして、品質と安全に対する意識を高めることを目的に、2006年から「センコーグループ技能コンテスト全国大会」を開催しています。

2007年6月、部支店・関係会社から選抜されたドライバー、オペレーター計81名が参加し、第2回大会を開催しました。2日間にわたった大会では、ドライバー(11t、4t)、

オペレーター(カウンタ、リーチ)部門に分かれ、知識テスト、「センコー流」点検整備、走行実技やエコドライブ、リフト走行や荷役積付技能などの競技に取り組み、総合得点を競い合いました。〔「センコー流」については26ページ参照〕

大会の開催と結果報告を通して、出場者のみならず、グループ全体のドライバー、オペレーターの安全意識の向上、客観的な自己認識と課題の発見、やる気の創出につながりました。

競技種目と概要

ドライバー部門		オペレーター部門	
競技種目 (11t部門、4t部門共通)	概要	競技種目 (カウンタ部門、リーチ部門共通)	概要
知識テスト競技	必要な法規、法令、構造、品質知識	知識テスト競技	必要な法規、法令、構造、品質知識
点検競技	日常点検・不良箇所発見の習熟度	点検競技	日常点検・不良箇所発見の習熟度
走行実技 (課題走行・車体感覚、後退技能)	危険予知能力・基本動作・操縦習熟度	リフト基本走行	正しい走行・操作における行動規範・センコー流の習熟度
エコドライブ	経済性・安全性の運転技術	荷役積付技能	積み付け・積み卸し運転技術

優勝者の声 ドライバー(11t)部門

優勝した嬉しさと同時に、これからは「優勝者」として他の人の手本にならなければ、という責任感が芽生えてきました。業務においても、今後はこれまで以上に慌てず、確実な運転を心がけ、一日一日を無事故で過ごせるよう精進していくつもりです。

ドライバー(11t)部門 優勝
延岡支店 車両営業所
松下 拓也



優勝者の声 オペレーター(カウンタ)部門

「センコー流」の操作手順をマスターするために、ずいぶん練習を重ねました。優勝が決まった瞬間、指導してくれたリフト技能トレーナーに祝福されたのが、何より嬉しかったです。来年も倉敷支店から優勝者を輩出できるよう、後輩の指導にも力を入れています。

オペレーター(カウンタ)部門 優勝
倉敷支店 倉庫営業所
西川 恭央



私たちが目指す姿

社是



流通事業の使命を自覚し、つねに最高の技術、最高の能力、最高のマナーをもって、顧客の立場に立って義務の完遂を図る。これが3Sの精神である。

中期経営計画

センコーは、情報を駆使し、商流も含めた流通全体で付加価値の高いサービスを提供する「流通情報企業」として、すべてのステークホルダーに信頼されるよう「誠実」な事業運営を展開しています。

2006年度、新たに中期経営3ヵ年計画(2007～2009年度)を策定しました。経営戦略に則り、企業の成長を目指すことはもちろん、地球環境や社会において物流業界の担うべき責任の大きさも認識し、品質向上と安全確保、環境保全に取り組んでいきます。

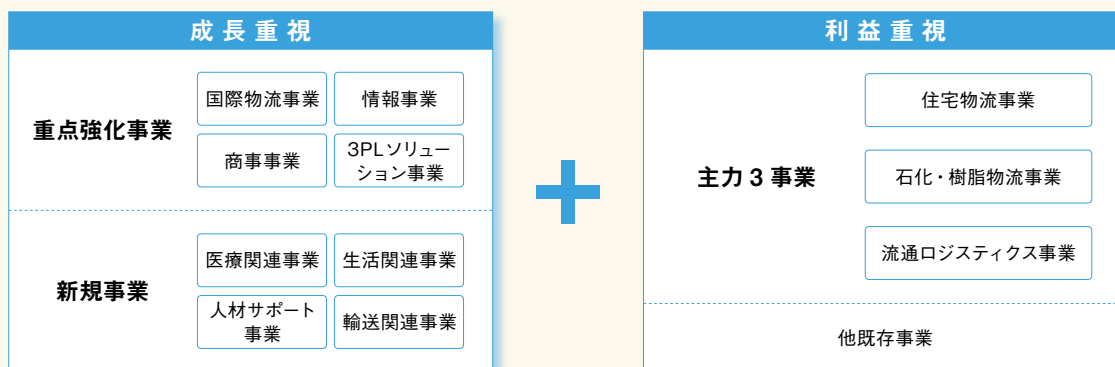
基本方針

- 「流通SCM※」の提供により、顧客のベストビジネスパートナーを目指す
- 経営体質のさらなる安定化、強化のため、売上高の拡大に加え、収益性の改善・向上を図る
- 社会、顧客、働く人々から選ばれる、魅力ある企業の実現に努める

※流通SCM：トラック、倉庫などの実物流機能に、サプライチェーンを一元管理する情報システムネットワーク、受注代行などの商流サポート機能を統合した流通最適化サービス

中期経営戦略

主力3事業(住宅物流事業、石化・樹脂物流事業、流通ロジスティクス事業)については収益の拡大に努め、重点強化事業(国際物流事業、商事事業、情報事業、3PLソリューション事業)および新規事業(医療関連事業、生活関連事業、人材サポート事業、輸送関連事業)を育成・強化します。また、提携・M&Aも含めて、グループ全体の成長基盤を拡大します。



提携・M&Aの推進

CSRへの取り組み

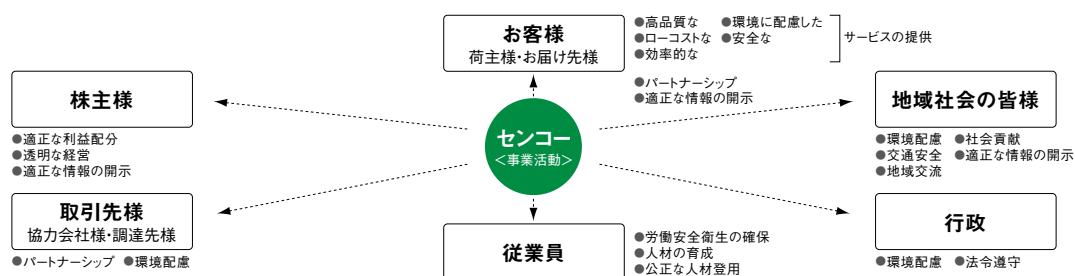
センコーのCSRの基本的な考え方

センコーの事業の中核を成す「運輸業」は、高い公共的使命をもっています。それゆえ本業を通じて社会に貢献し、その責任を果たしていくことは企業永続の必須要件です。

センコーはそのことを真摯に受け止め、適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくりを行っています。同時に全従業員が公共性の高い事業に携わっているとの認識を深め、本業を誠実に全うすることを通じて社会への貢献を追求していきます。

センコーの事業とステークホルダー

センコーは、当社と関わる主体をすべてステークホルダーととらえています。ステークホルダーとの関係をこれまで以上に大切に、具体的かつ実効性のある行動をとっていきます。



現在の具体的な取り組み

センコーのCSRにとって重要な課題として、「顧客満足の向上」、「安全・安心のサービス」、「地域社会への貢献」、「地球環境の保護」について各委員会を設置し、具体的な施策の立案、実行に取り組んでいます。

内部統制への取り組み

センコーでは、2006年の会社法の改正や金融商品取引法（日本版 SOX 法）の施行なども踏まえ、自主的に財務報告に係る内部統制システムの整備、強化に取り組んでいます。2006年度より業務の標準文章化などの検討を行い2008年度の運用に向け対応を推進しています。

コンプライアンス経営

法令を遵守し、倫理にかなった事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たし、すべてのステークホルダーから信頼を得る上で、最も基本的なことです。センコーは、誠実で公正な経営を旨とし、コンプライアンスの強化を推進しています。

個人情報保護

センコーでは、集荷・配送の依頼など、さまざまな機会にお客様の個人情報をお預かりしています。こうした情報を適切に扱い、保護することは企業の責務と考え、個人情報保護の徹底に努めています。

プライバシーマークの取得

プライバシーマークとは、個人情報の取り扱いに関して適切な保護措置を講じていると認められた企業に対し、(財)日本情報処理開発協会が認定・付与するものです。2003年10月、センコーの関係会社で、流通情報システムの構築・運用を担当するセンコー情報システム(株)が「プライバシーマーク」を取得しました。

CS(顧客満足)向上のための取り組み

CS(顧客満足)活動

センコーはCSR活動の一環として「顧客満足(CS)の向上」に努めています。2004年度より「お客様から感動される仕事をしよう」をスローガンに、CS向上に取り組んでいます。2006年度は、全社統一活動強化期間を設け、そのなかでお客様のご意見を聞くアンケートを実施したり、CS活動発表大会を開催するなど、活動の質の向上を図りました。

全社CS活動方針

スローガン 『お客様から感動される仕事をしよう』

- 方針
- 1 現場力を高める。
 - 2 営業力を高める。
 - 3 行動する管理の実践。

TOPICS 旭化成ホームズ(株)様とのパートナーシップ

新しい調達物流システム“ITB”の実践

センコーは、旭化成ホームズ(株)様と連携し、新しい調達物流システム“ITB(IT物流)”を構築、実践しています。これは、センコー自ら住宅設備機器・部材メーカー様へ赴いて資材調達することで、調達から施工現場への搬入までを一貫して管理するものです。調達した部材を物流センターに集約し、工期に合わせて小中ロットで搬入することにより、現場の施工効率の向上に役立っています。

CDリーダーを育成し、輸送・搬入の品質向上を実現

いっそうの顧客感動(CD:カスタマーディライト)を実現するため、輸送・搬入作業における品質向上にも取り組んでいます。施主様の立場になって搬入マニュアルを作成し、ビデオ視聴や現場指導を通してドライバーの意識と技術の向上を図っています。現場では、あいさつや人工芝を敷いての上履き移動など、きめの細かいサービスを実践する他、丁寧な養生や階層別・部屋別搬入、さらには解梱、梱包材の回収までルールを徹底し、品質の均一化を実現しています。こうした取り組みが現場の生産性、施工品質の向上につながり、施主様、旭化成ホームズ(株)様から高い評価を得ています。今後も継続的に品質を向上させるため、2006年度からは現場でドライバーを指導するCDリーダーを育成し、全国9センターに配しています。CDリーダーの育成研修には、旭化成ホームズ(株)様にも講師としてご参加いただき、同社が目指される施工やセンコーに求められる物流のあり方について、ご教授いただいています。



丁寧な養生(CDリーダー研修)



人工芝を敷いて、上履きで移動(CDリーダー研修)



お客様の声

旭化成ホームズ(株) 施工・アフターサービス推進本部 部材物流センター
東部材物流センター センター長 新谷 一公様

当社が注力する「ロングライフ住宅ヘーベルハウス」は、高い施工品質の上に成り立っています。そのため物流面からも施工品質の向上を推進するべく、センコー様とともにITBの構築、CDリーダーの育成に取り組んできました。CDリーダーの育成研修では、当社のロングライフ住宅戦略や、その実現のために必要な心構えについて理解していただくよう努めています。何よりの成果は、CDリーダーの成長はもとより、センコー様と当社間に円滑なコミュニケーション関係が構築できつつあることです。情報共有と密な意見交換が、日々の業務のフォローだけでなく、システムや現場の改善にもつながっています。

ITBを導入して約3年を経て、現在、物流品質の向上、施工現場の美化が着実に進んでいるという手ごたえを感じています。今後は、品質向上の主軸を担うCDリーダーが現場で指導力を発揮できる機会、雰囲気づくりに、いっそうの力を注いでいただきたいと思います。

環境基本方針

環境基本方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全及び継続的改善に取り組む。

行動指針

- 地球環境に気を配る企業であること
- 環境保全性と経済性の同時達成を目指すこと
- 従業員一人ひとりが身近なことから、環境問題に主体的に取り組むこと

環境方針

基本姿勢

私たちセンコーグループは、深刻化する地球環境問題を、当社のために働くすべての人が正しく理解し、地球資源の有効活用と資源循環に寄与する取り組みを推進する。

また、物流の果たす役割認識を深め、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムをあくなき創造性を発揮し、提案し続ける。

基本方針

- 1.環境マネジメントシステムと環境活動の継続的な改善を推進し、環境汚染の予防に努める。
- 2.環境に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
- 3.当社が行う事業活動が環境に与える影響の中で、以下の項目を重点テーマとして取り組む。
 - (1) 大気汚染防止対策および地球温暖化防止対策を積極的に推進する。
 - (2) 廃棄物の適正管理・リサイクルの促進により排出量を削減する。
 - (3) 環境に貢献する事業サービスを積極的に提案する。
 - (4) 省資源、省エネルギー、グリーン購入を推進する。
- 4.この環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と環境意識の向上をはかる。また、社外に環境方針を公開し、理解と協力を得る。

－ この環境方針は全従業員に周知し、社外の要求に応じ公表する －

2006年10月制定

最近の環境問題と物流業界の課題 ～「省エネ法」改正～

地球温暖化防止を目指す国際的な取り決めである「京都議定書」が発効されて、わが国では削減目標達成に向けてさまざまな取り組みが進められています。その一環として、2005年、事業者に直接的な省エネを求める「エネルギーの使用の合理化に関する法律(通称省エネ法)」が改正されました。これにより200台以上のトラックを所有する貨物輸送事業者には、省エネの中長期計画

の策定と年間のエネルギー使用量の報告、年平均1%以上のエネルギー使用量原単位の削減が義務づけられました。

また改正「省エネ法」では、荷主企業にも同様の義務が課せられます。そのため今後は、貨物輸送事業者と荷主が協力してCO₂削減に効果のある「グリーン物流」を促進していくことが求められています。

第Ⅲ期環境マスタープラン

センコーは、2001年度から3ヵ年を期間とする「環境マスタープラン」を策定し、グループをあげて環境保全に取り組んでいます。前期の成果と課題を検討し、

2006年度、第Ⅲ期「環境マスタープラン(2007～2009年度)」を策定しました。2009年度の中期目標達成に向け、環境保全活動を展開していきます。

第Ⅰ期環境マスタープラン(2001～2003年度)とその結果

従業員が環境問題への関心を持ち、できることから取り組む

- ◆基本スタンス ①地球環境に気を配る企業
②環境保全性と経済性の同時達成
③従業員一人ひとりが身近なことから環境問題に主体的に取り組む

◆目標	◆2003年度までの推進状況
1. 低公害車を現行台数の3倍を新規導入(3年後までに12台)	●グループ内にCNG車を12台導入(2004年3月末) ●自動車排気ガス規制への対応実施
2. 燃料使用量原単位を3年間で5%削減する	●原単位データ把握は未実施
◆実施項目	
①車両低公害化の推進(長期目標:保有台数の10%低公害車導入)	●CNG車の導入を進める ●排気ガス浄化装置をテスト実施
②省資源活動	●エコドライブ研修などの実施
③廃棄・リサイクル活動	●廃棄物管理研修の開始
④ISO14001の取得	●名古屋と中部営業部他で2件の認証取得

第Ⅱ期環境マスタープラン(2004～2006年度)とその結果

センコーの環境活動の取り組みを広く知ってもらう

- ◆目指す姿
「物流環境先進企業」に向け、グループ総体で活力のある継続的環境改善活動を着実に実践し、社会的に評価を得ている。
- ◆環境基本方針
「物流環境先進企業」を目指し、グループをあげて推進する。

◆環境目標	◆2006年度までの推進状況
1. ISO14001認証を全社統一で取得する	●認証の統合を実施
2. 車両低公害化	●グループ内にCNG車を28台導入(2007年3月末)
3. 全社共通の環境負荷軽減目標で運用されている	●全社環境目標を設定
4. 環境貢献活動を推進する	●一部荷主の製品輸送環境負荷把握の仕組み検討実施 ●環境負荷の小さい物流体系を目指す実証実験に参画
5. 環境報告書の発行	●環境・安全報告書の作成、発行

第Ⅲ期環境マスタープラン(2007～2009年度)

社外に環境活動の領域を広げていく

- ◆基本的な考え方
持続可能社会を目指した環境対策への積極的な対応と、ロジスティクスの高度化による物流環境貢献企業を目指していく。
- ◆施策
1. 資源生産性を高める活動
 2. 法規制順守と管理システムを充実させる活動
 3. 積極的にマーケットに働きかけ競争力を高める活動
- ◆環境目標
1. CO₂排出量の5%削減
 2. 廃棄物排出量の売上当たり30%削減
 3. 個別目標 ①自動車燃料:燃費3%削減
②電力:売上当たり使用量3%削減

環境基本計画

2006年度は、第Ⅱ期環境マスタープラン(2004～2006年度)をもとに年次目標を策定し、環境改善活動を展開しました。

続いて2007年度、第Ⅲ期環境マスタープラン(2007～2009年度)を策定し、それに基づいて年次計画を立案、活動を推進していきます。

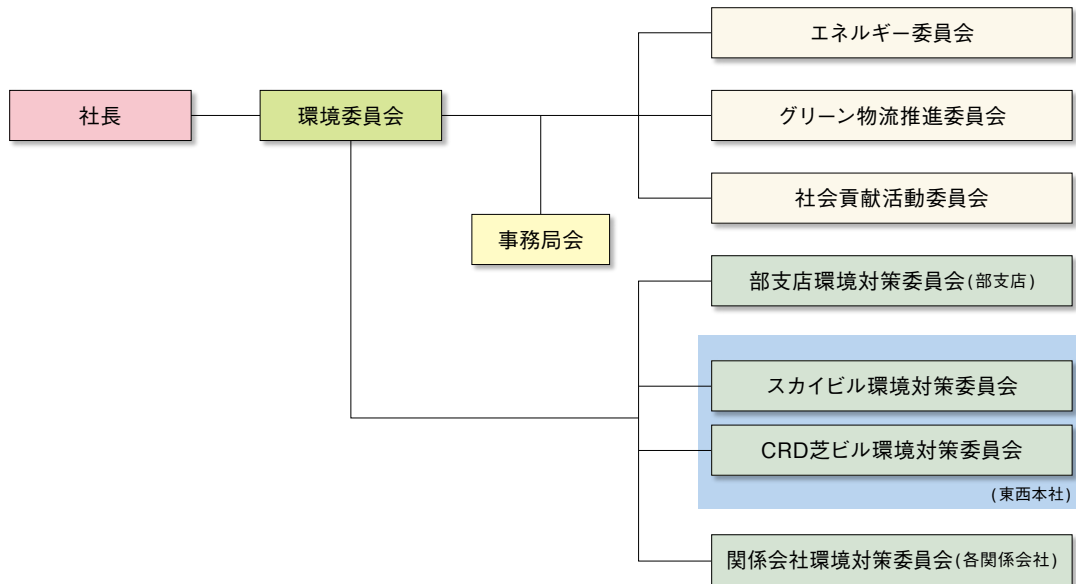
目的・目標	2006年度結果	2007年度計画
1. 環境マネジメントシステムの導入		
①ISO14001 全社一括取得	<ul style="list-style-type: none"> ●三協貨物(株)平田支店へ認証拡大 ●2006年8月にマニュアル、基準の改訂 ●更新審査を受審し、認証を更新 	<ul style="list-style-type: none"> ●認証範囲拡大を検討
2. 車両低公害化の推進		
①事業用車両の低公害化 低公害車期末在籍 40台	<ul style="list-style-type: none"> ●低公害車の導入推進 在籍比率 4.7%(2007年3月末) ●CNG車在籍 28台(2007年3月末) 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度末在籍比率目標 11.5% ●年次代替計画のある4t以下の車両で可能なものをCNG車へ転換する ●年次代替計画のある2t以下の車両をCNG車またはハイブリッド車に転換する
②業務用車両の低公害化 ハイブリッド車などの低公害車の導入	<ul style="list-style-type: none"> ●支店長車を除くセダンタイプの車両のうち、代替予定の12台をハイブリッド車に転換 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して転換を進める
③リフトなど設備の低公害化 低公害化対策を講じる	<ul style="list-style-type: none"> ●低公害リフトの導入推進 在籍比率 65.2%(2007年3月末) 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度末在籍比率目標 69.1%
3. 環境負荷低減活動		
①CO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料、電力の使用量把握 ●エコドライブ推進 ●エコドライブコンテスト実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●エコドライブ推進 ●デジタコの導入推進
②廃棄物排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物排出量の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物リサイクルガバナンスの推進
③グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●コピー紙のグリーン化 年間購入比率 73% 	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン調達率の向上
④船舶・倉庫の環境負荷軽減	<ul style="list-style-type: none"> ●倉庫照明の省エネ化検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●倉庫照明の省エネ化推進
4. 環境貢献活動の推進		
①モーダルシフト提案	<ul style="list-style-type: none"> ●荷主へのモーダルシフト提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●モーダルシフト提案の拡大
②顧客環境活動への提案	<ul style="list-style-type: none"> ●荷主への改正省エネ法関連情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン物流の推進
③社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ●支店、事業所ごとに周辺清掃活動などを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所周辺の美化、清掃活動 ●事業所の緑化拡大 ●子供交通安全教室開催
5. 環境報告書の発行		
①環境報告書の継続発行・充実	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境・安全報告書 2006」発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境・安全報告書 2007」発行

推進体制

環境推進体制

センコーは、グループ一体となって環境活動を推進するために、社長直轄の組織体制を整えています。中核である「環境委員会」で環境改善課題を検討し、それに

基づいて「エネルギー」「グリーン物流推進」「社会貢献活動」の各委員会で具体的な施策を立案、実行へとつなげていきます。



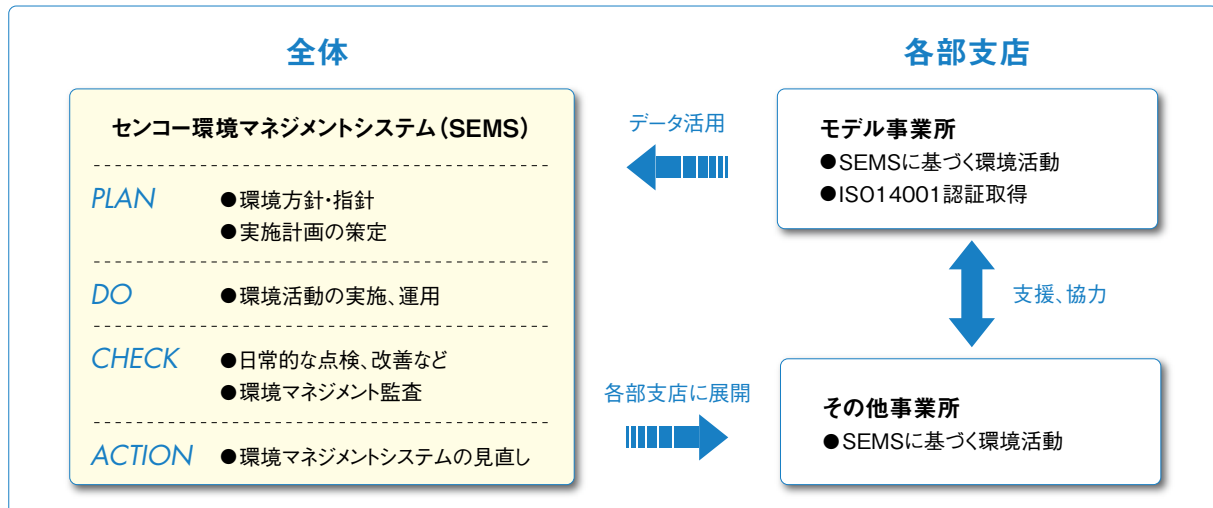
環境マネジメントシステム

センコーでは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001に準拠した「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し、展開しています。

またISO14001規格の2004年版への改訂にも

対応しています。新規格に合わせてマニュアルや基準書類を改訂し、活動も移行し、改訂規格審査による認証を取得しています。2006年3月の更新審査により、現在も認証が継続されています。

〈センコー環境マネジメントシステム〉



ISO14001 認証取得部門の環境への取り組みについて

2006年4月、関係会社の三協貨物(株)平田支店で新たに認証を取得しました。今後も各地域で認証範囲の拡大を進めていきます。

ISO14001 認証取得範囲(2007年4月現在)

認証取得部門	認証範囲事業所
名古屋主管支店・中部営業部	名古屋主管支店・中部営業部、名古屋営業所、金沢営業所
小牧支店	小牧支店・小牧営業所
三重支店	三重支店・三重輸送センター
静岡東支店	前田地区、新富士PDセンター、西富士物流センター
三協貨物(株)平田支店	平田支店

環境監査

ISO14001 認証取得の事業所においては、環境活動の実施点検のため、内部監査を1年に1回、外部審査機関(JQA)による審査を年に1回受けています。内部監査、外部審査において指摘された事項については、真摯に受け止め、速やかに改善します。



静岡東支店での外部審査機関による書類審査



静岡東支店での外部審査機関による施設見学

2007年3月の外部審査機関

(JQA)による更新審査では、2件の指摘事項があり、所定の期間内には是正を図りました。「改善の余地がある」とされたものについても、各部門で改善に取り組んでいます。

グリーン経営認証取得への取り組み

「グリーン経営認証」とは、「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する、地球環境に優しい経営に対して認証する制度です。センコーでは認証取得を目指し、各事業所で環境保全活動に取り組んでいます。

従業員への啓発活動

各事業所・支店での日常活動の促進、従業員への啓発を目的に、安全・品質・環境活動に関するスローガンを募集しました。審査の結果、環境活動に関しては人材開発部技術訓練センターの梶井幹弘さんの作品が佳作に選ばれました。

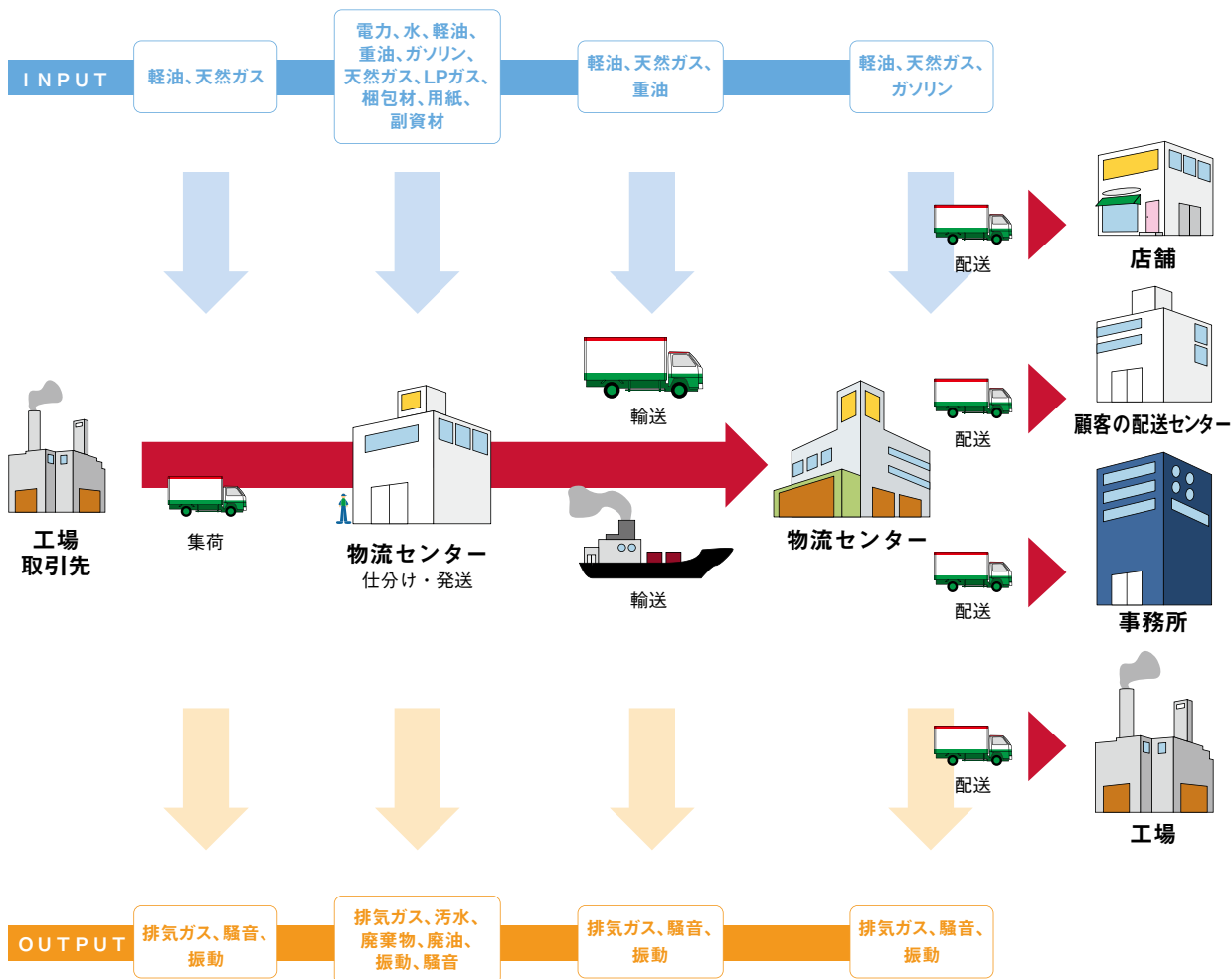
スローガン

守ろう地球 みんなの命 アクセルゆるめてエコロジー

センコーと環境の関わり

センコーの環境負荷の全体像

センコーは、事業活動における環境負荷を可能な限り把握し、その抑制、低減、削減に取り組んでいます。2006年度の事業活動に伴う環境負荷について、工程に沿って下記に示しました。

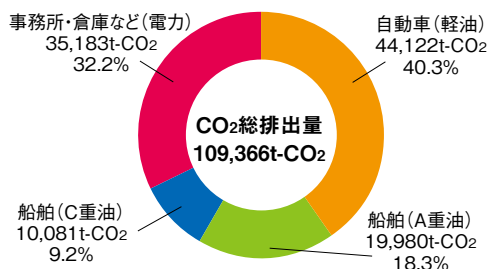


INPUT	
軽油	16,837 kL
重油	10,755 kL
電力	63,393,398 kWh

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	109,366t-CO ₂

CO₂ 排出係数は、平成 18 年 3 月 29 日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令による。

CO₂ 排出量要因別内訳



地球温暖化防止への取り組み

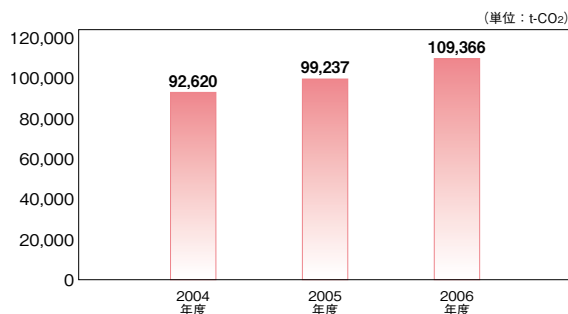
CO₂の排出状況

センコーは、事業活動に使用している自動車や船舶^{※1}、事業所、倉庫などからの温室効果ガス(CO₂)排出量^{※2}の把握に努めています。

2006年度に把握したCO₂排出量は、109,366t-CO₂で、ここ2～3年間では増加しています。主な要因は、社有船舶数の増加にともなう燃料重油使用量増加と新倉庫稼働にともなう電力使用量の増加によるものです。

※1 自動車は直営貨物自動車、船舶は直営船舶を集計範囲とする。
※2 CO₂排出係数は、平成18年3月29日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令による。

■年間CO₂排出量の推移



CO₂排出量削減への取り組み

エコドライブの推進

直営・グループの全車両においてエコドライブを推進しています。エコドライブとは、アイドリング・ストップや急発進・急加速の回避によって、燃料消費、CO₂排出量を抑制する省エネ運転方法のことです。

2006年度下期には、センコーグループの自動車事業所を対象に「エコドライブコンテスト」を実施しました。事業所内でグループを編成し、対前年の燃費改善率を競った結果、全体で2.2%の燃費改善効果を得ました。



「エコドライブコンテスト」ポスター

デジタル式運行記録計(デジタルタコグラフの導入)

全車両を対象に、燃料消費やアイドリング状況、速度などの運転データをデジタルで記録、蓄積することのできる「デジタル式運行記録計(デジタコ)」の導入を進めています。デジタコで速度超過、急加速・急減速の有無、アイドリング時間、エンジン回転オーバーなど、エコドライブに関する項目を計測し、デジタルデータをドライバーの運行改善に役立てています。



デジタコ車載機

低公害車への転換

貨物自動車や物流拠点内で稼働するフォークリフトをNOxなどの排出量の少ない低公害車へ転換するよう努めています。2007年3月末現在、CNG(天然ガス)車の在籍数28台、低公害フォークリフトの在籍比率65.2%を達成しました。

また比較的小型の貨物用自動車については、CNG車やハイブリッド車など低公害車への転換を進めています。業務連絡などに使用する事業用の乗用自動車についても、2006年度買い替え予定だったセダンタイプ12台すべてをハイブリッド車に転換しました。(推進状況については18ページ参照)



事業所での省エネルギー活動

2006年度は事務所や倉庫内での休み時間や不要場所の消灯、エアコンの温度管理などを実施しました。また夏期および冬期の室温設定ガイドを行い、「クールビズ」や「ウォームビズ」などの服装対応にも取り組んでいます。

物流効率化への取り組み

モーダルシフトへの取り組み

センコーは、トラック中心の輸送から、エネルギー効率の高い鉄道や船舶を活用する輸送形態へのシフトを推進しています。多くのお客様と連携し、多数の区間でモーダルシフトを実現しました。

ダイキン工業(株)様とのパートナーシップ

31 フィート大型コンテナを提案、製造し、ダイキン工業(株)様とモーダルシフトを推進しています。大阪府堺市・滋賀県草津市から埼玉県草加市間において、1日2便、列車で定期輸送することにより、CO₂ 排出量については試算値で年間約 850t削減、約 83.3%の削減率となっています。

この取り組みは、2003 年度国土交通省「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」に認定されました。



(株)プライムポリマー様など5社とのパートナーシップ

従来、樹脂の長距離幹線輸送では、フレキシブルコンテナ(フレコン)でトラック輸送していましたが、これを16t積載のバルクコンテナに変更し、海上輸送にモーダルシフトすることで、CO₂ 排出量が大幅に削減されます。

(株)プライムポリマー様では、2008 年に大阪工場にバルク充填設備の新設を計画されています。これに対応して船内に 48 本のコンテナを積載可能な 499 総tの新船舶を建造し、樹脂バルクコンテナラウンド船による幹線部分の海上輸送を推進する予定です。この取り組みによりCO₂ 排出量については試算値で年間約 527t削減、約 45%の削減率となっています。



扇翔丸



積載されたコンテナ

積水ハウス(株)様とのパートナーシップ

住宅メーカー最大手の積水ハウス(株)様と連携し、東北工場から北海道への住宅建材輸送において、鉄道を利用したモーダルシフトを実現しました。輸送にはセンコーが提案、製造した 20 フィート「スワップボディコンテナ」をご活用いただいています。これによりCO₂ 排出量については試算値で年間約 18.5t削減、約 48.7%の削減率となっています。



大型化・共同化への取り組み

31 フィート・ウイングコンテナ スーパーグリーンシャトル列車 (グリーン物流パートナーシップモデル事業)

センコーは、12 フィートから 31 フィートまでさまざまな大きさの鉄道コンテナを開発し、お客様にとってもっとも効率的な輸送を提案しています。

2006 年 3 月からは、グリーン物流パートナーシップモデル事業の一環として東京、大阪間で専用 31 フィートコンテナを積載する「スーパーグリーンシャトル列車」の運用が開始されました。センコーは、他企業と連携してこの列車を有効活用し、輸送効率をさらに高めています。



TOPICS グリーン物流パートナーシップ普及事業への取り組み(1)

倉庫集約化

パートナーシップによる樹脂成型品輸送の物流拠点集約化による省エネルギー事業

旭有機材工業(株)様では、生産量の増加に対し現在の倉庫保管スペースが不足となるため、センコーで賃借した市内営業倉庫で分散保管していたものを集約できる工場隣接地への倉庫新設をセンコーと検討され、2005年に計画決定されました。これを受けセンコーで新倉庫を建設することを決定しました。

そして、センコーで「荷主企業と物流事業者のパートナーシップにより実施される物流の改善方策を通じて、排出されるCO₂の削減効果が明確に見込まれるものであること」との条件を持つ「グリーン物流パートナーシップ普及事業」の設備導入の助成制度利用を計画しました。工場～センコー倉庫のトラック輸送距離の短縮、倉庫～市内倉庫のトラック輸送削除による物流の効率化を図れることから「グリーン物流パートナーシップ普及事業」の助成制度を利用し実施することとし、センコーと旭有機材工業(株)様などと共同で応募しました。この取り組みにより、現状比較で98%程度のエネルギー量の削減が見込めます。

2007年8月に助成実施機関のNEDO(新エネルギー開発機構)の交付が決定し、実施に向け推進中です。



新設倉庫の外観予想図

TOPICS グリーン物流パートナーシップ普及事業への取り組み(2)

樹脂バルク化でのモーダルシフト

樹脂バルク物流の拡大・モーダルシフト推進による省エネルギー事業

(株)プライムポリマー様では、大阪工場から各ユーザーへの樹脂バルク物流について、工場のバルク充填設備の新設、499総t船舶の購入、シャーシの購入などを行い、船舶へのモーダルシフト推進によるCO₂削減を図る計画を策定。センコーと共同で「グリーン物流パートナーシップ普及事業」に応募いたしました。これにより、現状比較で45%程度のエネルギー量の削減が見込めるとともに、527t-CO₂が削減できることとなります。

この案件も、2007年8月に助成実施機関のNEDO(新エネルギー開発機構)の交付が決定し、実施に向け推進中です。(樹脂バルク輸送についての詳細は5ページの特集を参照)

汚染防止への取り組み

車両の低公害化

センコーでは、自動車NOx・PM法などの法令や自治体条例による規制に対応し、環境に配慮した低公害車両の導入を進めています。最新の排出ガス規制に適合したディーゼル車、天然ガス自動車、ハイブリッド車など、

より低公害な車両への代替に取り組んでいます。

また物流拠点における搬入出用のフォークリフトについても、NOxの排出量低減につながるバッテリーリフトやLPGリフトを積極的に導入しています。

低公害車の導入状況

低公害貨物自動車在庫 (台数)

	センコー	関係会社	計
2006年度末在庫	7	21	28
対前年度末増減	2	3	5

※低公害車：CNG車、ハイブリッド車

低公害フォークリフトの導入状況

低公害フォークリフト在庫 (台数)

	バッテリー	LPG	ガソリン	ディーゼル	計
2006年度末在庫	1,308	352	207	608	2,475
構成比	67%		33%		100%
対前年度末増減	68	121	-22	-27	140

※低公害フォークリフト：バッテリー車、LPG車

廃棄物削減への取り組み

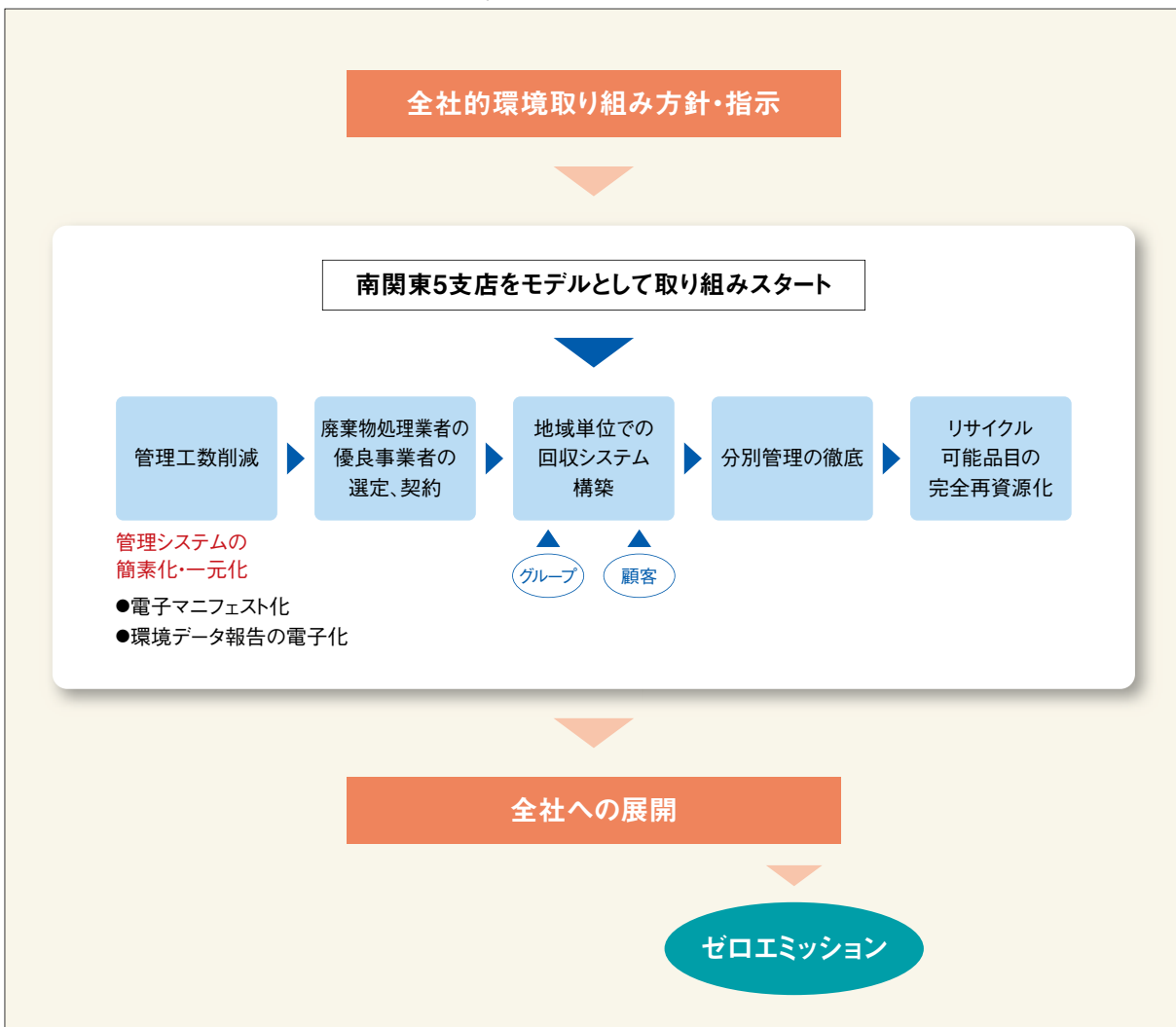
廃棄物・リサイクルガバナンス体制の構築、推進

循環型社会の形成に向け、廃棄物の削減に努めることは、企業の果たすべき重要な社会的責任の一つです。センコーでは、経済産業省が提示する「排出事業者のための廃棄物・リサイクルガバナンスガイドライン」をもとに独自の廃棄物・リサイクルガバナンス体制を構築し、

廃棄物の発生抑制、適正処理、3R(リデュース、リユース、リサイクル)に取り組んでいます。

2007年度は、ガバナンス体制に沿った推進プロセスを策定し、モデル事業所に選定した南関東の5支店で、ガバナンスの実行に着手しました。

センコー廃棄物・リサイクルガバナンスの推進プロセス



3Rへの取り組み

センコーは、全事業所を対象に3R(リデュース:廃棄物の発生抑制、リユース:再使用、リサイクル:再資源化)に取り組んでいます。

事業所ごとに分別ルールを定め、廃棄物の種類別に再資源化が可能なものを選別する他、再使用が可能な梱包材への代替も推し進めています。

リデュースの取り組み 廃棄物を分別し、再資源化可能なものを選別しています。

産業廃棄物の分別



東扇島PDセンター
構内で発生する鉄材、木材、プラスチックなどの産業廃棄物を分別し、種類別にリサイクルしています。

構内廃棄物の分別



東扇島物流センター
物流センター内で発生する蛍光灯、鉄、木材、紙の4種類に分別し、蛍光灯などリサイクル可能なものをより分けています。

オフィス内一般ごみの分別



クレフィール湖東
事業所内で発生する一般ごみをビン、缶、ペットボトルなど6種類に分別し、リサイクル可能なものをより分けています。

リユースの取り組み 再使用が可能な梱包材を開発し、段ボールなどからの代替を進めています。

荷崩れ防止ベルトのリユース



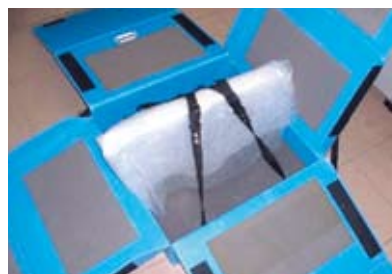
三重支店
「荷崩れ防止ベルト」をテスト使用中です。繰り返し使用することで、廃棄する梱包材の減少を目指します。

コンテナのリユース



舞浜PDセンター
梱包資材については、再使用が可能なプラスチック製の折りたたみ式コンテナへと代替を進めています。

引越し用梱包材のリユース



(株)センコー引越プラザ
「OAボックス」を独自に開発し、繰り返し使用することで廃棄する梱包材を大幅に減らしています。

リサイクルの取り組み PPバンドやストレッチフィルムの減容加工による再資源化に取り組んでいます。

減容加工による再資源化



柏支店
梱包する際に使用するPPバンドを減容機で圧縮し、リサイクルしています。

段ボールのリサイクル



平和島PDセンター
輸送の際に使用した段ボールを集め、リサイクルしています。

安全衛生への取り組み

労働安全衛生

労働安全衛生確保への取り組み

センコーグループは、重大事故「ゼロ」を目標に掲げ、安全活動を進めています。グループ全体の安全性をいっそう高めるため、2006年10月、「基本姿勢」と「行動指針」をもとに、新たな「安全方針」および「安全向上のための6つの重点施策」を作成し、安全活動を推進する

ための「安全管理責任体制」を構築しました。

2006年10月の貨物自動車運送事業法改正に合わせて、こうした輸送の安全に関わる情報を社内外に公開しました。詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.senko.co.jp/environment/transport/index>.

【安全理念】

「人間尊重」と「全てに優先する安全」の精神のもと、『完全0災職場を確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

【安全方針】

<基本姿勢>

- 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業経営の根幹であることを、当社のために働くすべての人が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。

<行動指針>

1. 安全マネジメントシステムと安全衛生活動の継続的な改善を推進し、事故・災害防止と安全リスクの低減に努める。
2. 安全衛生に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 安全・衛生活動に関する情報について積極的に公表する。
4. この安全方針を達成するため、目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と安全意識の向上をはかる。また、社外に安全方針を公開し、理解と協力を得る。

【安全向上のための6つの重点施策】

1. 事業における安全の確保が最も重要であるという認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守する。
2. 安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効果的に行うよう努める。
3. 安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じる。
4. 安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。
5. 安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを確実に実施する。
6. センコーグループ全体の安全性が向上するように、一丸となって安全確保に努める。

「センコー安全マネジメントシステム」の構築

センコーでは、リスクマネジメントの考え方を取り入れた、独自の「センコー安全マネジメントシステム」を構築し、安全水準の向上を図っています。このシステムでは、現場からリスクや課題を抽出し、それを組織のトップによるシステムの

再構築、さらには日常の安全活動の改善へとつなげる仕組みを実現しています。トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実に即した安全活動と、継続的な安全水準の向上を可能にしています。

安全管理研修・訓練の実施

「安全は全てに優先する」を実践するため、安全運転・安全作業が徹底する取り組みを、さまざまな角度から継続的に行っています。特にリーダーの安全管理・指導能力の強化を目標とし、各職場で安全を管理、指導する担当者や管理職を対象に研修・訓練を行っています。「全店安全環境担当者研修会」や「運行管理者研修会」を行う他、本社・地域での集合訓練、管理職を対象とした「経営者・支店長研修」を年数回開催し、安全レベルの向上を図っています。



全店安全環境担当者研修会

日常の安全活動の取り組み

センコーでは、日常的な点検や安全活動を徹底し、事故防止に努めています。またデイルイト(昼間点灯)運動や「HHK(ヒヤリ、ハット、気がかり)」活動など、独自の活動で、潜在的リスクの低減を図っています。

朝礼時の健康点検

業務前にドライバーの体調をチェックします。

ドライバーの健康を維持し、安全に業務を遂行するため、各事業所で毎日の朝礼時に血圧測定、アルコールチェッカーでのアルコール濃度測定、腰痛防止のためのストレッチ体操を行っています。現在、全事業所でアルコールチェッカーを導入しており、今後も台数を増やしていく予定です。



アルコールチェッカーでのアルコール濃度測定



腰痛防止のためのストレッチ体操

「危険度マップ」の作成

危険に対する感度を高めます。

ドライバーは、担当エリアの「危険度マップ」を作成しています。運行経路で人通りの多い商店街や見通しの悪い場所など、注意すべき点を書き加えることで、危険に対する感度を高めると同時に、他のドライバーとの情報共有ツールとしても活用しています。



マップ

危険予知(KY)活動

「KYシート」により、危険予知の感度を高めます。

危険予知の感受性を高めるトレーニングとして、運行上危険な道路や状況を描いた「KY(危険予知)シート」を活用しています。ドライバーをはじめ関係者全員は、日常的に「KYシート」を見て危険を検討し、不測の事態に備えています。



KYシート

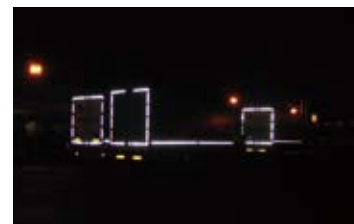
高輝度反射テープの貼り付け

追突防止のため、トラックに反射テープを貼っています。

事故防止のため、大型トラックおよびトレーラなどに夜間追突事故防止効果が期待できる高輝度反射テープの全車両貼付を計画的に推進しています。



高輝度反射テープ貼り付けトラック



高輝度反射テープ貼り付けトラック(夜間)

「こだわり運転3・5・5」安全推進運動

センコーでは、独自の安全運転基準「こだわり運転3・5・5」を制定し、実践しています。これにより、万一前方で不測の事態が起こっても、対処できる余裕を持って運転し、車両事故の防止につなげています。

「こだわり運転 3・5・5」

- こだわり運転 3: 走行中の前車から3秒以上の車間を取る
- こだわり運転 5: 先頭で停車する際、停止線より5cm以内で確実に止める
- こだわり運転 5: 停車する際、前車との間隔を5m(乗用車1台分)以上空ける

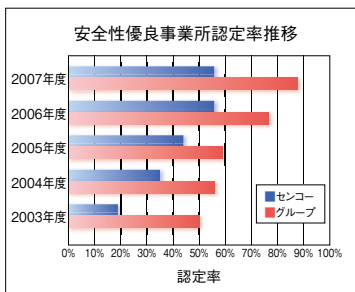
安全確保の取り組みに対する社内外の評価

「安全性優良事業所」の認定取得

社会的に評価される取り組みを目指します。

「安全性優良事業所」とは、(社)全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の安全性を評価し、認定するものです。

センコーでは、全事業所での認定を目指し、2003年度から取得に取り組んでいます。2007年7月現在、45事業所、および関係会社の16事業所が認定を受け、認定比率はセンコーで88%、グループ全体で56%に上ります。



※事業所統合含む
※2007年度は、申請予定を含む

「全国トラックドライバー・コンテスト」で優秀な成績

運転技能、技術の向上を追求します。

毎年、(社)全日本トラック協会が主催する「全国トラックドライバー・コンテスト」に各地区から代表者が出場し、優秀な成績を収めています。2006年の第38回大会では、トラックトレーラ部門で、センコーのドライバーが2位に入賞しました。2007年度も同大会や「全国フォークリフト運転競技大会」(陸上貨物運送事業労働災害防止協会)に出場し、各部門での優勝を目指します。



全国トラックドライバー・コンテスト入賞者

外部からの表彰・評価

社外からの評価をいただいています。

センコーでは安全・品質活動に対し、外部団体・お客様からも多くの表彰、評価をいただいています。

表彰一覧

- 延岡支店(陸上貨物運送事業労働災害防止協会「優良フォークリフト等運転者」表彰)
- 千葉支店((社)千葉県危険物安全協会連合会「優良危険物取扱事業所」、住友化学(株)物流品質善行表彰)
- 静岡東支店((社)静岡県トラック協会「第50回安全運転コンクール」表彰、(財)静岡県交通安全協会 会長表彰)
- 神奈川支店(旭化成ケミカルズ(株)「品質防災賞」受賞)
- 名古屋支店(石川県高速道路交通安全協議会「優良運転者」表彰、(社)富山県倉庫協会「優良従業員」表彰)
- 三重支店((社)全日本トラック協会表彰、(社)三重県トラック協会 ①最優秀運転者表彰②優良運転者表彰③優良運転者表彰)
- 京滋南支店(運転者永年勤続表彰「国土交通大臣」表彰、(社)全日本トラック協会優秀運転者顕彰(金章・銀章))
- 京滋南支店((社)全日本トラック協会優秀運転者顕彰(金章・銀章・銅章))
- 大阪支店(大阪府ハートフル企業顕彰「らんぶの」としび大賞受賞)
- 岡山支店(日本路線トラック連盟中国地区連盟会長表彰)
- 倉敷支店(全国通運業連合会「優秀従業員」表彰、岡山県高圧ガス地域防災協議会「会長」表彰)
- 北九州支店((社)大分県トラック協会 特別表彰)
- 南九州支店(JA荷卸コンテスト表彰)
- 国際物流部((社)横浜通関業会「通関従業者試験」3位(127名中))
- 通運部(近畿運輸局道路運送事業等運転者「永年勤続」表彰)
- 通運担当((社)鉄道貨物協会「協会事業協力者」表彰)
- ロジスティクス・ソリューション事業部((社)鉄道貨物協会「協会事業協力者」表彰)
- 神奈川センコー運輸(旭化成ケミカルズ(株)「品質防災賞」受賞)
- センコー引越プラザ(旭化成ケミカルズ(株)「品質防災賞」受賞)
- 三協貨物(社)鳥根県危険物保安協会連合会「安全管理保安作業の取り組み」表彰)

「技術・技能」向上に関する社内表彰

安全・品質に対する意識、レベルの向上を目的に、各部支店、関連会社を対象にさまざまな表彰を行っています。

「安全品質MVP賞」の表彰

1年間を通して最も優秀な安全・品質活動をした個人、グループを表彰しています。2007年4月、延岡支店車両営業所 井上三政、および京滋主管支店栗東営業所 浦谷茂樹・西隆志が受賞しました。

延岡支店車両営業所 井上三政



お客様に墜転落防止のための安全帯装着を推奨し、輸送品質の向上を実現しました。

京滋主管支店栗東営業所 浦谷茂樹・西隆志



競走馬の輸送業務において、配車責任者・配車担当者の強いリーダーシップにより、37年間、無事故・無災害を継続しました。

無事故・無災害皆勤者および事業所の表彰

長年にわたり無事故・無災害を継続した個人、事業所を表彰しています。2007年4月および7月には、無事故・無災害を合わせて11事業所・関連会社と、221名の個人を表彰しました。30年間無事故記録を達成した小牧支店 近藤清孝を社長表彰しました。

個人安全(無事故・無災害皆勤)表彰者

	無事故(人)	無災害(人)
35年	1	0
30年	1	0
25年	1	1
20年	2	12
15年	33	54
10年	24	41
5年	14	17
3年	8	12
合計	84	137

30年無事故表彰者 小牧支店 近藤清孝



化学メーカー様の出荷品・原材料の配送を行っています。誠実な姿勢で業務に携わり、後輩ドライバーの面倒見もよく、皆から慕われています。

事業所表彰 無事故連続記録賞

第1種 500万走行キロ無事故達成
埼玉主管支店 杉戸PDセンター
京滋南支店 ハウス営業所
三重支店 三重輸送センター
山口支店 ハウス営業所

事業所表彰 無災害連続記録賞

第1種 50万時間無災害達成
北関東支店 鹿沼営業所
岡山支店 車両営業所
埼玉センコー運輸整備(株)
滋賀センコー運輸整備(株)
宮崎センコーアポロ(株)
第2種 100万時間無災害達成
千葉支店 袖ヶ浦営業所
第3種 200万時間無災害達成
千葉センコー運輸整備(株)

労働衛生管理

労働衛生管理

従業員一人ひとりの心身の健康を守るため、職場環境確保と心と体への配慮を第一に考えた労働衛生活動をさまざまな角度より継続的に行い、働きやすく活気のある職場づくりを実践しています。

「快適職場推進計画」の認定取得

センコーでは、「快適職場推進計画」(中央労働災害防止協会)の認定取得に取り組んでいます。この認定は、「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針(快適職場指針)」(厚生労働省)に則っており、認定を受けることは、労働安全衛生法の規定を守り、仕事による疲労やストレスを感じることの少ない快適な職場づくりを推進していることの証になります。

2006年度、千葉・静岡東・名古屋主管支店などが新たに認定され、現在計115事業所が認定を取得しています。

静岡東支店の取り組み

緑化スペースを拡大し、雑草を除去して花壇を作りました。



受動喫煙防止への取り組み

「健康増進法」で努力義務とされている「受動喫煙の防止」に対応し、センコーでは受動喫煙防止に取り組んでいます。現在、90%以上の事業所で受動喫煙防止設備を完備し、引き続き全事業所での排気設備を備えた喫煙コーナーの設置を目指しています。



大阪本社の喫煙ルーム

SAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング実施

睡眠時無呼吸症候群(Sleep Apnea Syndrome: SAS)の早期発見と治療を目的に、関係会社を含む全ドライバー、およびオペレーター、事務系社員に対し、パルスオキシメーターによる検査を実施しています。検査の結果、SASの疑いがあるとされた者に対しては、医療機関による精密検査を受診させます。二次検診を受けない者は、乗務禁止とするなど厳密なルールを設け、健康の維持・管理を徹底しています。



パルスオキシメーター

メンタルヘルスチェックの実施

(株)ベネフィット・ワンと提携して「EAP(Employee Assistance Program)」を導入し、全従業員を対象にストレスチェックシートによるメンタルヘルスチェックを実施しています。診断・分析結果は、個々の従業員へのアドバイスや全社をあげてのトータルな改善策の構築に生かされています。

その他、従業員とその家族を対象とした「個人カウンセリングセンター」を開設し、プライバシーを完全に守りながら、電話でカウンセリングを受けられる体制も整えています。

メンタルヘルスセミナーの開催

各部支店、関係会社のトップ、現場の管理、監督者、および安全環境担当者を対象に、メンタルヘルスセミナーを実施しています。2005年度、2006年度の2年間で延べ392名が受講し、社員のストレスを解消する職場づくりや、EAP導入におけるリーダーの役割について学びました。

人材育成への取り組み

人材育成への取り組み

センコーでは、自ら革新していく「強い現場」、さらにはそこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」をつくるため、その中核となる人材育成に注力しています。

2007年度は、特に現場に革新をもたらすリーダーの養成を進めています。また長期的スパンで人材を育成していくことを目指し、教育体制の構築にも取り組んでいます。

【2007年度人材教育訓練方針】

1. 「センコー流」基礎編の全国展開とともに、上級編を作り上げ、「センコーブランド」の確立を目指す。
2. リーダー教育に重点を置き、「強い現場」を実現できる人材を輩出する。
3. 「現場改善～革新」を実践できるイノベーション・リーダーを育成する。
4. 教育カリキュラム間に関連性を持たせ、「点から線を生み出す」効果的な研修を心がけ、柔軟な運営を行う。

独自の行動規範・技術基準「センコー流」の完成

センコーは、2006年度、道路運送車両法などで定められている法令に、さらに独自の厳しい評価基準を加えた行動規範・技術基準「センコー流」を完成させました。あいさつ、服装、指差呼称の仕方から車両点検・整備、

運転・操作方法まで、40以上の項目を設定して業務態度や基礎技能のノウハウを明確化し、乗務の安全性向上、人材教育の指針としています。

「強い現場」を実現する人材育成体制の確立

センコーでは現場を担うプロの人材育成に取り組んでいます。その教育においては、求められる技術水準を明確にし、認定制度を設けて技術の標準化を図っています。

新人教育システムの構築

2007年4月から、トラックドライバーおよびフォークリフトオペレーターを対象とした「乗務認定制度」の運用を開始しました。

「乗務認定制度」とは、新人ドライバーや新人オペレーターが入社時からプロとして独り立ちするまで、教育課程の中間、および最終段階において認定評価を受けること

を義務づけるものです。プロの基礎となる技能についてこの2段階の認定評価を経て初めて、ドライバーまたはオペレーターのプロとして第一歩を踏み出したと認められます。これらの評価は、各地域に配置された安全運転トレーナーまたはリフト技能トレーナーによって実施されています。

新人ドライバーから

私は住宅部材の現場までの輸送を担当しています。入社当初から運転の仕方やあいさつなど、ドライバーのマナーやモラルについて現場で教わる機会が多く、安全に対する意識はずいぶん高くなりました。今回「ドライバー安全運転訓練」を受け、「危険」についてより深く理解できるようになりました。

京滋南支店 ハウス営業所
横江秀文



新人ドライバーから

私は住宅部材の輸送を担当するドライバーです。「ドライバー安全運転訓練」では、「安全運転トレーナー」から直接指導を受け、「安全に運転する」ことは、それまで考えていた以上に難しく、奥深いものだと実感しました。私も安全運転トレーナーのように「従業員の模範となるドライバーになる」という目標ができました。

京滋南支店 ハウス営業所
高田裕也



クレフィール湖東での運転訓練、研修の実施

「クレフィール湖東」は、約 66,000m² の敷地に基礎訓練や回避訓練、高速周回などが可能な交通研修コースを完備した体験型交通安全訓練施設です。



多数の企業・団体の安全運転技術向上に貢献

クレフィール湖東では、センコー独自の行動・技術基準「センコー流」をもとにした安全運転、エコドライブのノウハウや研修プログラムを多数の企業・団体、一般のお客様に提供し、社会の交通安全向上や環境保全に

貢献しています。2006 年度は、9,803 名の研修生を社外から受け入れました。研修後、年間事故件数が減少したという結果が出ています。

(単位：人日)

	一般	トラック	バス	行政・地域	計
2004年度	1,842	3,392	1,128	573	6,935
2005年度	1,601	4,805	1,748	912	9,066
2006年度	1,436	6,305	1,763	299	9,803

※トラックの数値には、センコーから参加した者を含んでいます。2006 年度のセンコーの利用者は、2,115 人日でした。



貨物自動車ドライバー安全運転研修

社内ドライバー・オペレーターの業態別技能訓練の実施

センコーでは、コア事業のブランド化を目的に、「住宅」「倉庫」「石油化学」「樹脂」といったお客様の業態別に物流技術のノウハウの蓄積と伝承システムの

構築を図っています。2006 年度に住宅業界から着手し、クレフィール湖東で基礎技能訓練、リーダー育成研修を行っています。

住宅物流技術の革新と伝承を担うリーダーを養成

現場のドライバー、営業部・人材開発部、さらにはお客様の三者が一体となって住宅物流の現状を分析し、業態に特化した物流ノウハウの訓練・技能伝承のシステムを構築しました。2006 年 10 月からクレフィール湖東内に新設された「物流技術研修所」に

おいて、施工現場のシミュレーション研修を実施し、工期短縮や環境に配慮した物流を実現できる CD ドライバーを養成しています。さらに 2007 年 1 月には CD ドライバー 21 名が参加して、CD リーダーへのレベルアップ訓練も実施しました。



品質についての研修



搬入方法についての研修



訓練ハウスでの搬入訓練

コミュニケーション

情報開示の状況

センコーは、CSR経営の一環として、各種媒体を通じて広く社会に向けた情報開示およびコミュニケーションに努めています。

ホームページ

センコーに関わるさまざまな情報を、インターネット上から広く社会に向けて発信しています。 <http://www.senko.co.jp>



その他

社内向け広報誌「APOLLO」を年6回発行し、各事業所、従業員の活動状況を中心に、社内の様子を具体的に紹介しています。



社会貢献活動

センコーグループは、従業員一人ひとりが「良き企業市民」として、企業活動と生活の基盤である地域社会を豊かで暮らしやすいものとするために、地域や社会に役立つ活動を推進しています。



淀川河川敷の清掃活動

2007年5月12日、本社(大阪地区)の各部門やグループ会社から約120名が参加し、近畿の重要な水源である淀川の河川敷の清掃を実施しました。



京滋センコー会による街頭パトロール

京滋主管支店管内の支店、協力会社で組織している「京滋センコー会」が、2006年9月28日、近隣の交差点での街頭パトロールを行いました。通学児童などの歩行者や自転車通行者の安全確保の支援と通行ドライバーへの表示板でのシートベルト装着の啓発活動を行いました。



田子の浦港、港湾一斉清掃「クリーン&グリーンポート協働作戦事業」に参加

静岡東支店では2006年6月7日、静岡県・田子の浦港、港湾一斉清掃「クリーン&グリーンポート協働作戦事業」(主催:田子の浦港港湾管理事務所)に参加。支店とグループ会社の従業員30名が田子の浦港に通ずる道路上や側溝のゴミや土砂、雑草を清掃、除去しました。

「子ども交通安全フェスタ」の開催

2007年3月20日、クレフィール湖東に滋賀県東近江市の幼稚園児とその保護者20組を集め、「交通安全フェスタ」を開催しました。当日は、「ぬりえコース」「おうだんぼどうコース」「くるまのみえないところコース」の3コースを設定し、信号の色の識別や横断歩道の渡り方、車の死角についてなど、交通安全の知識を楽しく学んでいただきました。

この経験を生かし、今後、全国各地で子どもへの交通安全教育を展開していきます。



横断歩道の渡り方を一緒に実践



保護者の方が車に乗り、車の死角を体感

センコーの沿革と環境保全・安全活動の歩み

沿革		環境保全・安全活動の歩み
扇興運輸商事株式会社を設立	1946年 (昭和21年)7月	
扇興運輸株式会社に社名変更	10月	
新光汽船株式会社を吸収合併し、これを機に初めて社船を保有	1951年 (昭和26年)5月	
倉庫業の認可取得	1959年 (昭和34年)7月	
大阪証券取引所市場第2部に上場	1961年 (昭和36年)10月	
	1970年 (昭和45年)4月	安全管理を全社的な立場から管理しコントロールしていく「保険安全管理室」を設置
物流コンサルティングを開始	10月	
	1971年 (昭和46年)10月	大阪府箕面市に従業員教育施設「研修センター」を設置
関西地区倉庫で荷主企業とのオンライン化を開始、以降全国の倉庫で展開	1973年 (昭和48年)8月	
センコー株式会社に社名変更	10月	
大阪証券取引所市場第1部に上場	1975年 (昭和50年)3月	
	6月	安全管理と従業員教育を担当する組織「安全・教育センター」を設置
引越事業に本格進出(センコー引越プラザを全国各地に開設)	1978年 (昭和53年)7月	
南港PDセンター(大阪市)開設により、総合複合機能倉庫(PDセンター)建設に着手	1980年 (昭和55年)8月	
小口配送事業の「センコージェット便」を開始	1981年 (昭和56年)4月	
量販・小売店向け納品代行システムが稼働、チェーンストア物流事業を開始	1985年 (昭和60年)3月	
	1986年 (昭和61年)4月	安全管理、品質管理と教育を担当する組織として「安全品質教育部」を設置
住宅資材物流センターを開設し、住宅資材の物流システムが稼働	1987年 (昭和62年)11月	
東京証券取引所市場第1部に上場	1990年 (平成2年)2月	
中国の合弁会社「大連保税區貝思特國際貿易物流有限公司」が営業開始	1996年 (平成8年)7月	総合交通・物流研修施設「クレフィール湖東」(滋賀県東近江市)を開設
神奈川支店が国際標準化機構の品質マネジメントシステム規格であるISO9002の認証を取得、以降各地の部支店が取得	10月	
	1997年 (平成9年)4月	クレフィール湖東が国際交通安全学会から第18回国際交通安全学会賞を受賞
中国・広州に「広州扇興物流有限公司」を設立	1998年 (平成10年)2月	船舶の安全管理システムの国際規格である「ISM」の適合認定を取得
	4月	安全品質のさらなる強化と環境対策に取り組む組織として「安全環境管理部」を設置
新ロジスティクスシステム「ベストパートナーシステム」が稼働	2000年 (平成12年)5月	
	6月	日本物流団体連合会から第1回物流環境啓蒙賞を受賞
eビジネス対応の総合物流システム「e-net senko」を開発	10月	
インターネットで物流センターの在庫が検索できる「インターネット・リアル在庫サーチシステム」が稼働	2001年 (平成13年)2月	
	3月	中期的環境指針としての「環境マスタープラン(2001～2003年度)」を策定
	4月	名古屋支店が国際標準化機構の環境マネジメントシステム規格であるISO14001の認証を取得
	4月	労働安全マネジメントシステムの導入に着手
	4月	家電リサイクル法施行に伴う指定引取場所の業務を岡山で開始
	2002年 (平成14年)4月	中部事業本部、静岡東支店、三重支店が国際標準化機構の環境マネジメントシステム規格であるISO14001の認証を取得
センコー情報システム株式会社が「プライバシーマーク」認定を取得	2003年 (平成15年)10月	
	12月	国土交通省「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」に参加
	2004年 (平成16年)3月	第Ⅱ期「環境マスタープラン(2004～2006年度)」を策定
物流特化の人材派遣事業展開で「S-TAFF株式会社」を設立	7月	
	2005年 (平成17年)2月	中部地区で2グループに分かれていたISO14001の認証を統合
福祉用具レンタル業界で、初めてICタグを実用化	3月	
	4月	環境関連データ把握を全社で開始
	11月	環境・安全報告書発行
	2006年 (平成18年)4月	ISO14001の規格を2004年版に改訂
	4月	改正省エネ法特定輸送事業者指定される



〈お問い合わせ先〉

センコー株式会社
安全環境管理部

〒531-6113

大阪市北区大淀中1-1-30-1300

梅田スカイビル タワーウエスト13F

TEL:(06)6440-5165

FAX:(06)6440-5177

URL:<http://www.senko.co.jp>

E-Mail:kankyo@sknet.senko.co.jp

ECO-PULP



エコパルプ



この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には大豆油インキを使用しております。

2007年10月発行